

平成24年2月1日発行

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

福井県三方上中郡若狭町熊川

TEL/FAX (0770) 62-0330

熊川宿ホームページ <http://kumagawa-juku.com>

# 熊川宿

## 鯖街道

### 重伝建選定15周年を祝う

#### 「まちづくりフォーラム」など記念事業を開催

平成8年7月9日に全国で42番目となる重伝建の選定を受けた熊川宿は、昨年で15周年を迎え、財三谷市民文化振興財団の協賛により10月16日、「若狭鯖街道熊川宿まちづくりフォーラム」の記念事業を開催しました。

午後から始まった記念式典では、来賓や主催者の挨拶に続き、スライド「熊川宿まちづくりの軌跡」が上映され、懐かしい映像を鑑賞しました。続いて第一部のフォーラムに移り、文化庁文化財調査官の清水洋平氏と財

午前中、準備が行われ、熊川区内にお祝いの紅白餅が配られました。

日本ナショナルトラスト主任研究員の土井祥子氏の記念講演が行われました。休憩時間には、熊川宿おもてなしの会による「特製葛ようかん」が振る舞われました。

続いて行われたリレートークでは、これまでお世話になった方々から、苦労話や感想などをお聴きしました。

第二部の交流会では、まちづくり委員らによるお祝いの餅つきが行われ、

来場者につきたてのきな粉餅が振る舞われました。最後に一乗寺郷土芸能保存会の皆さんによるつせん踊りと、熊川宿伝統芸能保存会や熊川区民による熊川音頭が披露され、記念事業を締めくくりました。

(2ページに関連記事)



重伝建選定15周年記念事業(平成23年10月16日)

### 目次

- 重伝建選定15周年を祝う..... 1
- 重伝建選定15周年記念まちづくりフォーラム... 2
- 寄稿文・お知らせ..... 3
- 熊川いっぶく時代村..... 4
- 寄稿文・話題..... 5
- 活動報告・名所紹介..... 6

重要伝統的建造物群保存地区選定15周年記念

# 若狭鯖街道熊川宿まちづくりフォーラム

〜未来へつなごう！歴史と文化を活かして暮らしをまじく〜

開催日：平成23年10月16日(日)  
会場：逸見高周家倉庫・宿場館前  
(福井県三方上中郡若狭町熊川)

主催：熊川区・若狭熊川宿まちづくり特別委員会  
後援：若狭町・若狭町教育委員会  
協賛：財団法人三谷市民文化振興財団

初めに記念式典が行われ、開会

にあたり熊川区長の宮本哲男氏が「いっぽく時代村では住民のまとまりと力を結集して盛大に開催できた。これも伝建地区に選定されていろんな取組みをしてきた成果と感謝している」と挨拶。

まちづくり委員会会長の河合健一氏は「歴史あるこの会場に、今日はお世話になった先生方にお越しいただき感謝している。振り返れば30年来の苦労は半端ではなかった。これからも終わりのないまちづくりを進めていきたい」

続いて、若狭町長の森下裕氏、若狭町議会議長の武田敏孝氏から祝辞をいただき、来賓の方々が紹介されました。

第一部のフォーラム・記念講演では、文化庁文化財調査官の清水洋平氏が「がんばる伝建地区！全国から見た熊川宿のまちづくり」と題して「熊川宿は伝建地区の中でも建造物の密度が高い。いっぽく



く時代村など住民あげてまちづくりに取り組んでいる」と講演。

(財)日本ナショナルトラスト主任研究員の土井祥子氏は「活かそう！私たちの歴史遺産」と題して「歴史遺産は感動を与えてくれるものでまちづくりをする人たちの姿勢



のもの。これからも全国に発信していただきたい」と述べられました。

休憩を挟んで、リレートーク「熊川宿のまちづくりをふり返る。これからは語る」に移り、歴史文化課長永江寿夫氏が司会進行を務めら

れ、初めに松宮昂氏から熊川宿へ寄贈された絵画「家康腰掛けの松」のお披露目がありました。

リレートークでは、福井大の福井宇洋氏が「昭和50年、河内へ調査に行く際、この街道を通ったのが

きっかけ。約20年後、再び来るようになり伝建選定への流れが進んだ」当時、福井大助手の高嶋猛氏は

「私はひたすら実測だった。それぞれの お家の方が調査を快く受入れて下さった」

元上中町長の霜中衛氏は「河内川ダムや中核工業団地と併せて熊川宿のまちづくりに取組んだ思い出がある」

元上中町助役の吉田義治氏は「守る、育てる、作り出す」の景観整備三原則を熊川宿は実行されている」

元町並み相談員で故柴田純男氏の奥様は「番所修理の時は私や子供も手伝った。子どもたちが父を語る時、熊

川宿をなくして語れない」

町並み相談員の宮田勝美氏は「古い建物を大事にすることは自分に対して徳を積むことになる」とブータンの子どもたちに教えられた」

伝統芸能保存会の平尾希典氏は「てっせん踊りは平成9年より一乗寺郷土芸能保存会のご指導で80年振りに復活。今も交流が続いている」

小浜市の佐久間博氏は「小浜西組も伝建地区になり三年。歴史街道として繋がりができ連携しながら歴史文化のまちになっていくことを望む」

一乗寺郷土芸能保存会の西村正久氏は「てっせん踊りは京都市の無形文化財。今後は後継者の育成が課題」

元京都市議会議員の青木善男氏は「しっかりと予算を組んで、信念を持って取組んでほしい」

最後に永江課長が「今後益々熊川宿が栄え、活き活きと住まわれるよう祈念します」と締めくくり、第二部の交流会に移りました。

## 熊川宿と河内川ダム

霜 中 衛 (元上中町長)

去る10月16日、熊川宿逸見高岡家の倉庫跡で、重伝建選定15周年記念事業として、記念フォーラムが開催され私も参加の機会を頂きました。久しぶりに、当時お世話になった熊川宿の皆さんや町の関係者、日本ナショナルトラスト、文化庁の皆さんの話をお伺いしました。

選定以来15年の歳月が流れましたが、いろいろな事が思い出され、嬉しかった事、残念な事、悲しかった事、こうすればどう成っていただろう等、思い出が尽きません。そんな中でも忘れられない事は、河内川ダムと熊川宿整備の関係でした。河内川ダムは、県営事業として計画され、当時の上中町としては、河内区の移転場所の選定が一番大きな問題でした。

当時、河内区の皆さんは、いろんな苦しみを持っていらつしやいましたので、熊川区との接点も少なく複雑な関係でした。

そこで私共は、地区の連帯を大切にしようと呼かけ、ダム問題、宿場町問題、地区の過疎化の問題を共有化する様に呼びかけました。いろいろと異論もありました。幸い河内川ダムの仕事は、福井県が事業主体ですので、ダムも熊川宿も水系が同一だという事で県のお力にすぎりました。

言い換えれば、河内区の移転地問題を軸に、熊川宿整備や、新道区からゴルフ場、末野に抜ける道路整備も完成したものだと思っています。勿論、これらの大事業を支えて下さった熊川宿の皆さんの重伝建選定への並々ならぬ合意があったからなのです。今後の熊川宿の発展をお祈りします。

## お知らせ

## 熊川宿まちづくり総集會が開かれます

日時：平成24年

2月18日(日) 13:30～

会場：熊川児童館

&lt;スケジュール&gt;

13:30 あいさつ

13:50 講演

演題 町並みを育む景観づくり

講師 濱崎一志氏  
(滋賀県立大学教授)

15:00 報告

熊川宿の空き家調査について

報告 高村学人氏  
(立命館大学政策科学部准教授)高村ゼミ学生  
(立命館大学政策科学部)

15:40 懇談会

平成23年度 よさこよ  
「手づくり郷土賞」  
(大賞部門)を受賞

熊川宿のまちづくりの取組みが評価され、国土交通大臣から表彰されることになりました。2月23日に大阪で授賞式が開催されます。

速報

通算18年間熊川小学校に勤めさせていただき、多くの思い出を抱きつつ退職の身となりました。

思えば数十年前、今は立派になった教え子たちと西村幸夫先生や大学生と町並み調査をしたことで、熊川の多くの宝を知ることができました。調査内容を自主学級で発信したり、冊子や看板を作ったりしました。

また、女性の会支部長時には、教え子たちが物品販売を手伝ってくれ、「いらつしやいませー」と声高に呼びかけている写真が入賞したと、大阪のアマチュアカメラマンが知らせてくださいました。お手紙と熊川の名産品のやりとりが、子どもたちとその方との間でしばらく続きました。

今は「熊川いつぶく時代村」の会計係と勤兵衛茶屋のお手伝いをさせていただきながら、熊川宿の良さを発信できるこ

## 「おいでやす」

熊川宿おもてなしの会会員 宮川直美

とを大変嬉しく思います。

「時代村」に関わる皆様の心中には、県内外のお客様をたくさんお迎えしたいという思いが見事に詰まり、昨年も素晴らしいイベントを開催することができました。

おもてなしの会も、会員が喫茶と民泊の業務をこなしつつ、お客様に気持ち良く滞在していただく工夫をしています。

熊川宿の良さを知り、癒しの空間として感じていただくだけでなく、今後は、くず・民芸品など制作体験できる場があれば一層お客様に喜ばれるのではと感じています。私も微力ながら「おいでやす」と尽力させていただきたく思います。今後ともよろしくお願いいたします。



# 熊川 いっぷく 時代村

と き：平成23年

## 10月2日

と ころ：鯖街道 熊川宿

(福井県三方上中郡若狭町熊川)

主催：熊川いっぷく時代村実行委員会・熊川区

共催：若狭町

協賛：熊川町観光組合・わかさ東商工会熊川支部

後援：NHK福井放送局・(株)福井新報社・

FBC福井放送・若井テレビ(株)・

FM福井・チャンネルO・MMネット

司会：曾我道家 若狭



いざ、出陣。

赤う貝と鉄砲を合図に戦国時代行列の出陣！  
甲冑隊や足軽を先頭に信長、秀吉、家康の三武将をはじめ、  
子どもたちが曳く山車を曳んでお姫様、お殿様、町殿と続きます。



## 熊川宿で蘇った 戦国時代行列

豪華絢爛。

本陣ステージでは役者たちが幕列。  
右端は京極高次役の宮本哲男熊川区長。  
言葉遣いもお姫様になりきっていました。



今年はNHKの大河ドラマ「江」に因んで、  
戦国時代行列が行われました。  
一時小雨に見舞われましたが概ね晴天のもと、  
多くの方にお越しいただき成功裏に終わることができました。

ちんどん屋や産無僧が街道を盛り歩き、  
祭り気分を盛り上げていました。  
熊川宿の歴史的な町並みに  
よく似合います。



熊川小児童による子ども語り部でも、  
お江やお茶について発表がありました。



子どもから大人まで楽しめる毎年人気のブリキの金魚レース。  
今年は1レース限定で約130匹が一斉に流れる姿は壮観！



毎年人気の金細工や似顔絵職人。  
餅つき、反極餅、パザール、特産品のアント  
も賑わっていました。



サバは  
いらんげー

立命館大の学生さんや  
サーバー君仕立ての  
行儀人も登場しました。

浅井三姉妹役には熊川の太田三姉妹が大役を果たされました。  
戦国時代行列のクライマックスでは役者全員が本陣ステージに集結。  
記念撮影や表彰式が行われ、勝ちどきで締めくくりました。



## 話題 TOPIX

## 町道10号・舞若道小浜IC開通

(6月26日)

地域住民の長年の夢であった町道10号が開通し、新道から国道27号安賀里地係へ5分程度で抜けられるようになりました。(冬期間は通行止)

また下ノ町駐車場(西口駐車場向かい側)が整備されました。

一方7月16日、舞鶴若狭自動車道小浜西ICから小浜IC間が開通しました。

## 熊川宿七夕飾り

(7月3日)

熊川宿おもてなしの会が旧逸見勘兵衛家で、また熊川宿まちづくり活性化部会が西口で七夕飾りを行いました。

## (財)日本ナショナルトラスト会長が来訪

(9月6日)

小浜出身でJR東日本の会長でもある大塚謙毅会長と土井祥子氏が来訪され熊川宿を視察、現状と課題について河合健一会長らと話し合われました。

## 清永調査官を囲む会

(10月16日)

伝建15周年記念事業の後、熊川児童館に会場を移し、文化庁調査官清永洋平先生や小浜西組の参加者をお迎えして、懇親会が開かれました。

## 熊川小学校同窓会報発行

(12月25日)

15年ぶりとなる熊川小学校同窓会報第31号が発行されました。



一年近くを

かけて名簿を再調査し、卒業生や在校生の作文、今昔の熊川地区の様子などが紹介されています。卒業生に一冊1,800円(送料別)で頒布、受付は熊川小学校。

## 県庁で熊川葛の資料展示

(1月6日~31日)

福井県庁1階の県民ホールにて、熊川葛に関する資料展示が行われました。



葛製品はもちろんのこと、葛根、葛葉、葛根コースターや葛製造の工程写真、頼山陽の書簡などが展示され、広く県民にPRされました。

今年には戦国時代行列というテーマで熊川いっつく時代村が行われ

太田夕貴

がれば、又、自分の故郷を大切にしたいと感じました。

## 戦国時代行列に参加して

熊川在住 太田三姉妹

太田小百合

毎年、熊川地区の行事に参加させて頂いていますが、今年はいつもと違い、戦国時代行列で主役級の役柄をさせて頂きました。

いろんなたぐいの方から「きれいー」や「すっぴいねー頑張ってー」等のお言葉を頂き、自分自身参加して良かったなと思いました。

過疎化が進む中ですが、熊川の活性化に繋がると感じました。



ました。毎年、町娘役で参加させてもらっているのですが、今年は浅井三姉妹という大役をさせて頂きました。私たち三人でいいのだろうか、と不安だらけでしたが、皆さんに沢山嬉しい言葉をかけて頂いて、させて頂いて良かったなあと感じました。このような貴重

な体験ができるのは、もう一生ないと思うので、とても想い出に残るお祭りになりました。沢山の観光客の方に来て頂いて、これからももっともつと活気溢れる熊川になるよう、地域の方々と力を合わせていけたらいいなと思います。

太田知里

今回は、浅井三姉妹として、太田家の三姉妹で参加でき、すごく良い思い出ができたと感じています。大阪までかつら合わせに行き、そこまでのことは無かったため、最初は戸惑いましたが、当日は準備もスムーズに進んだので良かったです。



私は三姉妹の一番下なので、主役の「江」の役をさせて頂いたかったです。かつらは髪がお尻のあたりまである長い髪だったので、すごく重かったです。着物も、主役ということで豪華だったので、歩くのにひと苦労でした。

自分ではとても恥ずかしかったのですが、近所の方や観光客の方々が「きれいやでえ」と言ってくれたので、この役をいただけ良かったと思うことができました。このような立派な役はもう無いと思いますが、これからも熊川地区に貢献していけたらいいなと思います。

〔活動報告〕平成23年7月～12月

## 7/17 熊川宿自主防災デー（通報訓練）

（熊川區・熊川區自主防災会）



熊川區民を対象とした自主防災デーで、このほど整備された近隣火災通報システムを使って通報訓練が行われました。初動対応で家族や近隣の無事を確認・報告した後、區民は熊川児童館へ集結。若狭町環境安全課の田中秀明課長から防災の取組みや避難時の注意点について「体育館などの避難場所では場所決めが重要。舞台は更衣室に使うとよい」などと話されました。

## 8/13 街かど陶の灯り展

（熊川宿おもてなしの会ほか）



熊川宿の夏の夜をそぞろ歩いてみませんか？とお盆の三夜、陶器の焼物にロウソクやLEDを点し、街道沿いに並べました。二日目は満月のもと幻想的な町並みが演出され、また最終日の三日目は盆踊りとも重なって多くの區民らが鑑賞していました。

## 8/15 納涼盆踊り

（熊川區・熊川自主防災会）



今年も桜音頭や炭坑節の流行踊り、保存会によるてっせん踊り、熊川音頭が踊られました。周りでは焼そばやかき氷の屋台、千本釣りのゲームコーナーが賑わっていました。保存会では3月20日から月2回の練習会を行い、一人でも多くの参加を呼びかけています。

## 10/23 第3回 水彩画教室

（熊川宿おもてなしの会）



町内外から8名の参加があり、今回の講師の池田正幸先生（若狭を描く展審査委員長・小浜市在住）から描き方のコツをお聞きし、参加者はそれぞれの場所へ。先生のアドバイスを受けながら筆を進めていました。最後にみんなで、池田先生から講評をお聞きしました。

## 11/26 ふくいまちかどコンサート

主催 福井県



三國を中心に活動されているフォークバンド「ハニカムズ」によるミニコンサート「うたごえひろば」が旧逸見勤兵衛家で開かれました。昭和40～50年代の懐かしいナンバーが演奏され、観客も一緒に口ずさみました。

## 12/28 年末夜回り警戒

（若狭消防署上中分署）



穏やかな新年を迎えられるよう、積雪と厳しい冷え込みの中、年末夜回り警戒が行われました。各団体や區民らは上ノ町と下ノ町の端から「火の用心！心で用心、目で用心」と呼びかけながら熊川児童館へ集結し、上中消防団の年末特別警戒出発式に参列しました。

**家康腰掛けの松**  
（いえずすこじかけのまつ）

元亀元年（1570年）4月、秀吉と家康をも従えた織田信長は越前の朝倉義景を攻めるため、京都から敦賀へ向かう際、熊川で一泊した。得法寺に泊った家康が、境内の松に腰を掛けたことからこの名がいい伝えられている。

近年松くい虫の被害に遭い、現在は根元だけが残っている。

## あとながき

10月2日の熊川いづく時代村で今回、県や町から補助をいただき、NHK大河ドラマの「江」に因んだ戦国時代行列が行われました。浅井三姉妹役に熊川の太田三姉妹が務められ、終始笑顔で華やかに盛り上げてくださいました。また、事務局はじめ実行委員、関係者の皆様には大変ご苦労様でした。

10月16日には重伝建選定15周年の記念事業が開催され、当日は天候にも恵まれ多くの方にご来場いただきました。文化庁の清水先生から「熊川區民はいづく時代村など総力をあげてまちづくりに取り組んでい」と講評をいただきました。皆さんの話をお聴きして、これまで実際に多くの方々のご苦労があった今日町並みや暮らしがあるのだと思いました。

熊川區では今、国道303号の歩道整備が進められています。国道沿いの地所が削られるのは致し方ないとして、人も車も安全に通行でき、より快適な暮らしが守られるよう進めていきたいと思います。

（編集委員）